資料２

若者が活躍するまちづくり事業の今後の展開について

活動層

関心層・潜在層

市民協働推進課の事業	事業の概要	今後の展開
仙台若者SDGsアワード2022	社会課題の解決のために活動する若者団体の表彰や、若者団体同士の交流会等を開催する。また、その活動の伴走支援をする。	・仙台市外の団体も表彰対象に拡大し、表彰や団体同士の交流の機会を増やす。 ・若者団体へのセミナーを通して、活動の PR スキルなどの向上を応援。 ・県内自治体にも参画を呼びかけ、団体の受賞枠やフィードバックの充実を図る。
ユースチャレンジ！コラボプロジェクト (若者版・市民協働事業提案制度)	若者団体から身近なまちづくりに取り組む事業の提案を募集し、市が負担金を交付するとともに、若者団体と市が協働で取り組む。	・引き続き、当課及びサポート団体による伴走支援を行い、若者団体の不安を払拭。 ・新年度向け事業の公募日程を前倒し、事業の準備期間や実施期間を確保。 ・翌年度も活用できる制度とし、取り組み継続を応援。
仙台まちづくり若者ラボ	まちづくりに関するテーマに沿って、ワークショップとフィールドワークを行い、その成果を発信することで、まちづくり活動を担う若者を育てる。	・広報チラシに実際の参加者の声を載せるなど、参加のハードルを下げる。 ・若者ラボ卒業生や活躍中の若者団体、同世代の市職員との意見交換の機会を創出し、交流を促進するなど、若者の活動を後押し。
体験機会の創出 （新規）	「マチカツ」に興味・関心はあるが、まだ活動に至っていない若者が、活動への一歩を踏み出すきっかけとして、「マチカツ」を体験できる機会を創出する。	・気軽に参加でき、実際の活動イメージも持ってもらえるような体験の機会を創出。 ・上記機会を創出する際は、企画・運営側に若者が参画することで、若者が成長できる機会も創出。
情報の届け方の工夫	市の若者活躍施策等の情報を若者により効果的に周知広報し、認知度向上や参加者数の増加につなげる。	・市の若者活躍事業を集約して発信していくことで、若者に多様な機会を提供。 ・若者の身近な人達への周知広報も強化し、若者の参加の後押しにつなげる。 ・助成金情報のメール配信サービスなども活用することで、若者の「わからない」を払拭。